

其ノ建物ヲ施設、粗悪ナル事ヤ、停廢專用、病室等モ亦事ノ開キ候事、
 マツルハシシラ、心カラ札毒モ思ヒマシク、何分詳クイ事情、余ク知クマシテシテ、其ノ
 日ヨリ命デラシク勤務ニ就キマシクカ務仕務ハ、ニヒ人ノ兵員ト一掃ニ晝間
 ハ晝時間、夜間ハ各其交代ニ時間ノ不獲番ニ就ク事ナシク、晝間ハ各人
 別々ニ分テ作業地ニ巡廻、トモ兵員ヤ、朝鮮ニ負達スル危官ヲ加ヘテシテ、此ノ
 ノナイ、ウ保護ニ當リ又作業中負傷シタル人、身体具合、應イ人ノ任ナリ此ノ
 日ヨリ事ノ注意シテ歩ク事、テシテ勿論逃亡ニ對スル監視ノ命モ受テ、店マシクカ
 余ノ退職ノ人達ハ、トモ其ノ心配、少シモアリマシテ、私ハ初メテ氣毒モ思フ
 井ルテ、アスラウ停廢ノ作業ヲ指導監督スル日本ニ員ニ對シテハ、決テウ世理ノ任
 事ハ、アナイ事、少シモモ身体具合、無ク人ノ直クニ診察ヲ受テサスニト老人
 ニハ持テ氣ヲ配ル事等、ヨリ注意シ、私ハ退職ニ老人ノ對シテ、休メ時間以外、テモ
 特別休養ヲ與ヘマシク、テ老人達ハ、私ハ退職ヲ何ヨリモ後口待テリビラシク、
 有様ナシク、日カ經テ、少シシテ、様子判ツテ、未マシクカ如何ニテ、停廢
 對スル待遇ガ、悪イ、カカ不審ヲ抱キ、任リマシク、御承知、ヨウニ、日本軍
 隊持テ、海軍、テハ階級ノ差別ガ、激シク、準キ、長(兵曹長)以上ニ官ニ
 テ、ト、余ク其ノ待遇ノ差ハ、ヒトク、私達下ニ官、兵トハ、玉棟ト奴隸ノ様ノ
 差ナリ、又私達下ニ官、テモ、其階級ガ、同シ、ア、ウ、モ、ニ、日、モ、早、其、人、カ
 連級、テ、居、シ、ハ、服、從、シ、テ、ハ、ナ、リ、マ、ン、且、取、下、級、下、ニ、官、テ、ア、ツ、ク、私、カ、直
 接、抑、カ、(指揮官)ヤ、中、越、富、水、柳、柳、岩、下、カ、私、本、某、高、橋、凌、等、ノ、上
 級者ニ、自分ノ、不、審、ラ、ウ、ク、シ、テ、一、意、見、ヲ、上、申、(上官、對、意、見、ヲ、述、ベ、ル、ト)
 ハ、從、對、許、リ、マ、シ、シ、然、シ、勤、務、ニ、ク、シ、別、テ、勅、リ、マ、シ、シ、任、廢、ク、人、達、カ
 「ウ、エ、キ、島、テ、捕、ヘ、ラ、シ、テ、餘、ニ、斬、時、收、容、サ、レ、テ、後、法、各、保、モ、設、計、相、當
 現場ニ送テ、作業ニ就ク事、知リマシ、彼等ハ、二回、今、テ、送、テ、シ、ク、
 ヲ、ヒ、テ、第、一、回、(物、ニ、ヨ、リ、名、第、二、回、)納、五、夜、第、三、回、ニ、ミ、テ、在、リ、
 第、二、回、ト、保、止、同、ノ、三、十、或、在、リ、殆、ト、重、輕、ノ、意、旨、ア、ク、事、ヲ、兵、員、
 達、ト、ウ、聞、キ、知、リ、ミ、テ、停、廢、達、ノ、何、旨、ヲ、述、ヘ、マ、シ、ク、ヨ、リ、余、ク、粗、悪、ナ、居、
 住、處、ヲ、收、容、シ、テ、私、ノ、隊、ニ、テ、時、々、モ、被、服、等、ノ、全、ク、支、給、サ、レ、テ、様、子

(三) モナク伊藤君は自今、島に所持する品物を、山に於て居るに過ぎず、有様

ア、私ハ是と對し疑問を抱キ、伊藤君達ノ立場ニ同情シ、ナシカ、努カク

ニナケルハ、是ノ如クト深ク決心シ、衣服、食事、其他ハ全部在任中、軍施

設部相當現場ニ支給セリ、ヨリ、ナラフキ、衣服支給セテ居ナク、或ハ

数人ノ伊藤君、地下足袋、夜間テ、テ、キ、カモ知リ、マ、私ハ、收金セ、富初、

居リ、マ、シ、テ、折、テ、其、他、人、公、認、シ、キ、ル、シ、テ、ス、伊、藤、君、收、金、シ、テ、居、住、區、に、施、設

部、相當、現、場、ノ、責、任、者、中、村、清、輝、ガ、伊、藤、君、作、業、に、使、用、ス、ベ、キ、命、令、ヲ、受、ケ、宿、舎

附近ニアツテ、セメント倉庫、テ、大、急、改造、シ、テ、住、居、區、ニ、シ、タ、モ、ア、モ、ト、モ、ト、人、カ

生活ニ適したる、出来、ア、オ、リ、マ、セ、ン、余、粗、悪、ナ、モ、ア、シ、テ、前、日、私、ヒ、カ、評、シ、テ、言、イ、タ

通、リ、テ、ス、私、ハ、ナ、テ、リ、テ、伊、藤、君、達、ノ、不、適、ヲ、救、フ、テ、ア、ラ、シ、バ、ナ、ラ、キ、ト、思、フ、テ、キ、マ

シ、テ、以、和、十、七、年、ノ、冬、ハ、例、年、ニ、テ、イ、嚴、シ、イ、寒、ア、ア、空、内、ア、テ、(空、下、敷、度、及、迄、氣、温

ノ、下、シ、テ、事、カ、ア、リ、マ、シ、テ、私、モ、海、南、島、ノ、暖、イ、所、ニ、テ、歸、還、シ、テ、許、テ、実、令、ヲ、務、メ、持、

以、數、的、健、康、ニ、志、シ、テ、イ、私、肺、肺、結、核、夫、ヲ、咽、喉、部、カ、化、膿、シ、發、熱、ニ、週、間、以、上、モ

病、床、ニ、苦、シ、ミ、マ、シ、テ、澤、山、伊、藤、君、達、モ、失、張、リ、私、同、族、結、核、者、ウ、エ、ー、ハ、島、ノ

ノ、末、ヲ、キ、テ、候、ノ、激、変、カ、余、程、身、体、ニ、影、響、シ、テ、マ、リ、氣、管、支、夫、ヲ、起、シ、テ

人、カ、澤、山、ア、リ、マ、シ、テ、此、様、ナ、秋、態、ニ、ア、リ、マ、シ、テ、カ、指、揮、官、折、テ、自、定、(自、分、計、産)

テ、讀、書、ニ、耽、リ、施、設、部、中、村、清、輝、ト、朝、野、某、達、ハ、自、令、達、ノ、使、用、ニ、テ、キ、ル

伊、藤、君、病、人、ヲ、見、舞、フ、テ、事、ハ、一、回、モ、ナ、ク、不、親、切、ア、リ、伊、藤、君、務、長、松、坂、憲、ハ

少、テ、イ、テ、果、然、カ、自、己、ノ、最、善、ノ、努、力、ヲ、シ、ラ、マ、シ、テ、キ、ル、他、ノ、上、被、下、官、達、モ、伊、藤、君、

令、後、ア、リ、持、テ、上、官、上、士、ト、カ、ハ、毎、日、安、眠、酒、ヲ、吞、ミ、彼、ハ、酒、ヲ、吞、ミ、前、後、不

適、見、(用、自、令、ナ、ス、意、イ、行、為、カ、判、ラ、ウ、マ、シ、テ、事)、ニ、テ、テ、隨、令、ト、亂、見、水、ヲ、行、爲、ラ、シ

兵、員、ハ、モ、エ、ロ、貝、モ、シ、ク、彼、コ、ウ、歐、ラ、シ、テ、キ、ル、ヲ、見、マ、シ、テ、施、設、部、ヨ、リ、伊、藤、君、對、シ、

衣服、居住、區、其、他、總、テ、ノ、待、遇、カ、悪、ク、其、上、伊、藤、君、直、接、保、護、要、ト、ス、

ニ、對、シ、私、達、聖、武、隊、員、カ、伊、藤、君、對、シ、不、親、切、令、違、イ、テ、ハ、彼、等、ハ、誰、ノ、同、情

ニ、對、シ、ハ、イ、ノ、ケ、セ、リ、カ、カ、私、上、級、者、ヲ、施、設、部、員、ハ、有、様、度、不、滿、ヲ、

（四）
悟シテテス 冥サハ日ニ臨ミ嚴シクナリマシク、私達六員、各自カ所有スル

（四）
田布ハ三枚テシクカ何處カ幸ニ確クシ、時ニ枚タリト記憶シテキマス、シテ

施設部事務長後藤由某ニモ布ヲ借ルルハ願ニ行キ、新ラシク徵用アル

ル半島（朝鮮）工員ニ用意セテモ布、中ヨリ、俘虜總員ト兵員總員ト

ニ對スルニ枚宛ノ數、借ル事カ出来、俘虜モ私達モ毛布リ五枚トシマシク

床住區ノ入ルカ二重テ便所ヲ外部ヨリ其ノ入ニ冬風カ吹キ込ミマス、テ麻巾

近ノ人カ寒イト思フテ、中村清輝ニ頼テ、麻巾二重ニシテ寒風ノ直接部

屋吹キ込ムヲ改造シテせむシマシク、暖ヲトル區大穴鉢、約一〇圓ニ固テラ

クカシテ記憶シマシク、事ニ宜クテ借マシク、折ガリ朝トク方作業後木炭ヲ

便用ス事ヲ許可シマシクカ實際カ木炭カ不足テキマシク、テ木炭リ

少クシテ末湯ニ添テテキル木炭ヲ燃シマシク、

其、凍ニカト何故コノヨリ俘虜カ對スル待遇カ悪ク其理由カ少シク私カ判

テ考テリマシク、前日モ述ベマシク通り、俘虜カ陸軍大臣カ管理ニテリ

是レニ登錄サレ、初メテ俘虜トシテ、義務權利カ及後列スルニテアリ

マス、然カルニ如何ナル理由カ是ヲ全ク無視シテ、勝手に海軍施設部ヲ

總務課カシメタノテ施設部カ俘虜ヲ養育シ支給スル總務課ノ豫

算金カナク、結局衣服モ、日用品等モ其ヘル事カ出来ズ、收支合スル一番

大切ナル床住區下へ全ク人ノ生活ニ適サナイ家、收支合シクテス、是レ全ク

當時カ佐々保體守符ヤ換領貨、銀守符等、俘虜ヲ使用スルハ、ナシク

人ノ、まゝ任テアリ、全ク無責任極ル行爲デアリマス、俘虜カ病人ヲ吾々名以上モ

佐々保ノ山奥ノ病院モ、医師モ居ナイ處ヘ送ラテ行爲、既、人道ヲ

重視シテナル行爲、カト思ヒマス、又是ヲ使用シテ佐々保海軍施設部

カ收支準備ヲ完全ニテマス、直ニ就業セシメ（病人カ作業ヲ居ラセシメ）

ノ事ヲ、ノテ、病院カ（医師ヲ）用テ意シタルヲ、中村清輝ノ責ニ任リ

テ下ニシテモ、又カレナイト思ヒマス、尙中村命令シテ當時カ施設部

本部ノ且、尙ま責任者ヤ俘虜カ對スル、義務カ服、給食、園、保、有、等

資材が豫算金全部に達する事と思はるる中村請が待遇改善に誠意の
 ナク其マ放置して事何トソモ責任ハスレシモ得度使用をモカ民
 間ノ管判會社アリハ斯モ不遇ノ與ハズニ決シテ事ト思ヒマス。施設部ケ
 同ノ海軍ノ或ル一部隊アリ彼中村請彈加海軍中尉(相當官)ヲ相當
 施設部海軍部ニ或隊ヲ遣シ且較高階級アリノ警口或派指揮官ヲ
 兵曹長ヲ階級ニ大ナク差カアリマシク以上様々状態トスカラウ論
 正規ノ陸軍收容所トナク當然得度トシテ受ケル權利、今無視サレ被
 服ノ支給僅々一着ノ作業服一足、地下足袋衣、ミ、支給ニ終リ其他ハ全クナク
 又得度トシテ當然救恤品(萬國赤十字ヲ通シ)ヲ受ケ權利ヲ有シテキルニ
 施設部ハ得度ヲ收容シタ昭和十七年十月十一日昭和十八年十月十日福岡保
 康收容所第ナ分所が設置せラル迄タダ一度モ救恤品ノ支給スラ受
 ケテ居リマセン。陸軍ニ手續ナセズ登録シタラテ結果トデス

居住區ニ在リテ夜服ノ支給サスニ医療設置員ハ不完全、食費モアミリヨク
 ナク加ヘテ救恤品ノ支給スラセイテスカラ得度ノ人達ノ如何ニ不満デ
 タク當然ノ事ト思ヒマス。タダ一着ノ作業服一足、地下足袋ヲ支給シ
 労働ニ服スルニ、其ノ事業服地下足袋何程使用出来ルデモウリワ、
 ニ、三ヶ月モ決シテ使用ハ耐エマセン。其ノ救恤品ノミラ以テ得度ニ夜服
 ヲ支給シテ満足シテシタ施設部関係者ノ良心、疑フコト外アリマセン
 カナハ分所ノ設置してナク得度ノ人達ハ陸軍兵員ト全ク同量同質ノ
 被服其他總テ支給サレ(支給セバ且私達ハ遠ク見テキマタ)食事も
 日本陸軍兵員ト同質同量ノモノヲ支給シ、彼等ハ非常ノ憤慨マシタ。
 施設部ニ員食ヲ支給シマシノモノハ百四合程度トシテ多副食物ノ兵員食ナ
 長クハアリセン。私達海軍部或隊員モ全ク得度ノ人達ト同質同量ノ
 モノヲ施設部カラ分讓受テ見ヒ、今ハ事代ヲ施設部ニ支給ソクノ
 テス

11173

施設部も故意ニ食事ヲ悪クシテキチリテマウ工員食止ナルカ故ニ陸軍一
 收養所の設置道ヲシテモソリイ結果ニナクモト思ヒマス。施設部一
 責は府中村清揮ハ自己ノ責任ヲ回避スニ厚如何ナル事ヲ陳述シテ
 カ知りマセン。彼ハ清揮ニ對シテ絶對ニ責任有テアリ又陸軍部ニ或隊折片
 渡皮モ同ジテスガ是ハ全クニ事實ア折片渡皮ニ私達ニ對スル絶對
 命令者テアリ責任有テアリマス

以上ノ事ハ且大京小因テ收養所ニキチリテ清揮ノ人達ハ全ク不慮ナク陽
 テリ陸軍施設部ニ對シテ不慮ハ決シテ無理クトハ思ヒマセン然レ施設部
 ノ斯ル内要員狀、知ラズ直接ニ或レ任テアリ然モ何等責任ナキ
 私ニ其ノ件ニ改善ニ死カラ盡シテ一番名ヲ記憶セラレ其ノ志ノ不慮
 フ私ノ在任中表現シテ事ハ無算無振全ク身ニオセエテ私ハ死シテ
 モ死ニ切ナイ悲シミヲ感シマス私飲食自今ノ潔白ト真相ヲ暗儀ニ
 知テテ歎カテレバナリマセン

指揮官折片渡皮邊ハ蓋和士人ノアリマシカ此ノ氣毒ナ清揮ノ對シテ積
 極的熱心意ヲ中村清揮ニ共ニ努力ヲシテウツク生員任リマスガレマセン
 彼等ハ其ノ志ヲ於テ爾總テ命令者テ職務ノ責任有テアリマス私達
 ハ總テ彼等ノ命令通り絶對服從シ働イタヒスキマセン

前日ノ記録ニモ書キマシタガ昭和十七年一月頃迄は保身ノ備隊考謀
 (警戒隊ノ指導ナシモノ)ヨリ毎月保身ニ關スル書類ヲ提出シ命令
 未リマシタ。抑片ハ私ニ其ノ原稿ヲ作ル情命ニマシタ私ノ下級者カ
 上官ノ自今ノ意見ヲ布達ヲ速ヘル且取モ言テ機曾カト思ヒ俾居テ
 對スル侍處改善ニ關シハアタル布達ヲ書キ此ノ努力ハ折片ノ渡
 皮下交代ニ陸軍オテ八分所ノ設置道ニ込目的究途ニ努力シマシタ

主ニ事ハ前日ノ書キマシタ通りノ居住區改善(2)居室ノ設置道
 元令ノ藥品支給醫士師ノ常在勤務(3)通性食物支給
 (4)衣服用品ノ支給(5)娯樂設備ノ設置道(6)浴室ノ新設等ア(六)
 アトス、此中ノ私ノ努力ハ僅セラシクモハ僅ニ一部ノ居住區改善ニ
 マシタ事ナ。但陸軍専用ノ浴室ガ出来タル事ヲ同ノ専用浴室ガ出来タル事
 僅カ作業限一着ノ地下足袋衣一足カ支給テシタ事ナ。昭和十八年二月頃

七) ロッパニア製長造を事として浮屠人達ニシテ何と云はむト云は、其に左を保

(海軍忠清) 係より特別ニ來りて、事出未だ定テ決テ是迄是迄に理及セシノ

命今道ノ信事ニシテ其の總リ與ヘシルニ勤務必ハ命セシマスナラシ私ニ

以テ今ノ休憩時間ニシテ又來シ外ニ(休日)ニ命セシトシテ信事ノ忠實柱

ニシテシバテテテ、海軍ノ再ニシテ、日本軍隊テハ、今ノ自今ノ勤務ガ

認マモト上ニ命セタルトシテ、昨夜中テモ又、**眩暈**ヲ取テテモ命

デシテ、信事ノシテハ、バトウマン 精向私ハ誰ニモ一奮任事ヲサセラシトシタ

タデ、指揮官トシテ、私ハ信事ヲ命ジ自今運ニ遊ニテキテ、テス

昭和十七年十一月五日、浮屠人達トシテ一奮樂シルベク、テ、テ、テ、テ、テ、

却テ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、其ハ、

指揮官、許可ヲ得、遠慮會ヲ催、又、以テ、八月一日、一日、一日、一日、一日、

ハ、催テ、致シ、テ、全許私所持全テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、

省大長、快テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、

ス、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、

私に下り行馬に言ハ福田も指揮官打た渡邊も知ッテキルカモ
 コセン 指揮官打た渡邊は市中に兵舎に死達上様居ッテテス彼
 等の何事も知ッテカツタト云ワレタイと思ヒス。

私が入隊シテ時既ニ死セシテ居リマシラガ入隊シテカラノ死セシテ初メ
 厚辱ハハルドイジシノレト云フ若イ人テ彼の腸が悪ク大衰衰弱シテ

于ミテ彼愛妻ト見ス 抱キテキマシラ私妻モ病身ナリ當時六
 庫隸ニヨル肺癆食所入込ニテキマシラガ私妻ヲモは療患者ノ珠

子ヲ妻ニ手紙ニ書キ移リ出シタルトコロ妻ノ私性質又コソ知ッテキマス
 病人ノ對シテハ更ニ親切ヲ盡シテ下サイト書キ肺癆患者トシテ自分ノ配給

エナラシメ一箱(一個は名ヲト思ヒス) 林橋ヲ送り来リヨシシニ其ハテ
 トアリマシラ私其ノ林橋ヲシシニ全部具ヘテ妻ノ見舞ノ言葉ヲ彼傳

ヘマシラ勿論私ハ英語ヲ許セマシラテ僅カニ知ッテキル単語トキ真似テ
 ノノ意味ヲ彼傳ヘタルテスコシシトハ決テ以テ感謝致シマシラ彼ヲ下

シテ助ケタリト思ヒ佐母保市のみテ整腸劑(三式錠)ヤコ強カホリマシ
 ラ賞メテ彼ニ進リマシラ其折ノ彼感謝シテ嬉シイ顔ヲ今キモ思ヒ

起シミス 彼ノ意ニナリ 病モ咽喉ヲ通ラナクナリシキリニ甘イ食物ヲ
 急ンガラスニテ下度ニ清潔湯酒床ヲ配給シテハ初メニ使イハシメテ

ヲ異ヘマシラシルクノ中ノ進入ッテキルテ決テ悦ビテ冷マテトナイ
 マシラ其妻ノ本當ニ私妻ヲシテ且愛ヘキ女ヲトテ想ヒ出シテセウ

彼ノ死期ハ近ツツト私ヲ枕邊ニ呼ビ妻ヘ遺言ヲ頼ミシラ私ハ
 ヲシテハ彼ノ遺言ヲ書キシマシラシメマシラシハ指揮官打た提出シマシラ

シシシハ私親切タル心ヲ感謝シマシラシトシカイリアムト云フ太妻真面目
 ナ青年ノ居リマシラ彼ノ煙草ヲ好ミ私ハ喫煙シナイテ軍隊ヨリ配給

ノモノハ全部療養所ノ人達ニ分テ具テキマシラ彼ニ何時ニマルテ彼
 私ヲ非常ニ喜ビテキマシラ彼モ急性肺炎ヲ死セシラウニ記憶シテ

キマスガ彼モ私ヲ随分厚シク菓モ亦メ具ヘタリ菓ナキヤ菓物等
 出ス得ハ私ノ努力ヲ親切ニ盡シマシラ又其他ノ療養所患者ニシ

テ譯シテ人ニ菓ナキ他ノ品物モ進メテキルノコソ名ヲ記憶シテ居リマシ
 療養所人ニ對シテ治療ハ全部施設部ノ行ヒシコソカ菓ナキ品モ分

メテカマシラシラ完全ニ病室モ医療設備ナククク何處カヲ便

用スル事ニ専念シテ居候。臣ハ医療設備娯樂設備ノ夜服支給ヤ其他ノ
對シテ努力ナサレシ施設部中村清輝ヤ朝野某連ニハ重大ナル責任のアル
ト思ヒミス。又海軍省ニ派指揮官折戸度邊モ、余ノ私ノ如キ是取上級者
ノミハ事ヲ次々キテ命ジ自分達ハ何處方ニ對スル改善ノ努力ヲ積極的ニ
ナサカラス事ハ自分ノ職務ニ對シテ勤勉デアラトハ決シテ申サレマセン。彼等ハ
恐多ク説聞ラズテ湯合私ニハ何處方ニ對シテハ詳ニイト回答スルニ間
違ヒアリマセン。私ハ彼等ヲ次々キテ休ミ時同モ共ニラズ澤山ノ書類ヲ
言ハサレマシカ。アマリ多ク一人ヲ書カシクテ何ニラ書イカ。判ヤリシテ記憶ハア
ラセシ。タカク何處方人名簿。住所録等書キテ事ヲ記憶シテキミス
指揮官折戸度邊ハ其ノ書類ハ他ノ命ジク書類ハ全部彼等ハ檢
査スルノテス。如何ニ事ヲモ彼等ハ自分ハ知ラナイトイフ事ハ絶對ニワ
レナイ事デアセン。彼等ノシヨウナ事ヲ云フト假定スレバ彼等ハ如何ニ責任
アリ自分ノ責任ヲ回避セントスル事ヲ自身ヲ證明スルノミデス

私ハ英語ヲ読ス事ハホメマセン。タカク僅クノ耳註ヲ知ラキルノミデス。見テ意味
ハ判リマセン。官シテ書キテ事ハ出表ミス。ソレヲ專問ニ事務ヲ執ツタリ庶務
ヲシタテハアリマセン。要ハ勤務ノ勤務アサシ。其ノ上休ミ時間ノシテ

任事ヲ命セラレタリテ私人任事ヲ命セラレ指揮官ヤ上級下級官ハ何ニ
シテハイナイデス。粟邊元介ハ自分僅クナ俸給ア然モ規則ノ犯シ
テハ何處方ノ人達ニ粟ヲ買テ與ヘナクとも済ナカモ知レマセン。私ハ少シテモ粟

ヲ買ハクワシカラデス。ソレ私ハ決シテ金持テナク妻ハ病後ニ入院中ナ
生計ニモ困ルヨウナ状態ナリテシテ。粟品ニ對スル事ハ佐保保海軍本部備隊
各課ニ毎月熱心ニ嘆願シテ申受ケワリ。要領隊ハ何處方ノ用ノ粟ハ何

何處方ノ用ノ佐保保海軍施設部本部ハナイデスカ。一回特別ニ支給シテ
買テ買ル。ホメマシラ。其ノ外ニ一回私ニケテ各備隊医務科ニ行キ休下官
ニ事ヲ請フ。情ヲ請フ。情ヲ請フ。外ノ粟品ヲ澤山世夏ノ事カホメマシラ。御禮

ニ自分全ク不慮ヲ寛ヒシト上官ヤリマシク私ハ斯クモ苦心シテキルヤス然レテ
其ノ重イイ藥品ヲ抽木馱ヲ相當迄一里ノ山道ヲ擔テテ憐ツクテ入ル山道
テ隨分苦シクモアリマシクカハ、^ア藥カ幾ク存^レ得^ル處ヲ救^フ事ヲ志スルト思ヘバ
決シテ苦痛ヲ感シシメンテシテ、昭和十八年三月四月頃カクテ記憶シテキマス
治療ハ施設部相當現場醫務長松坂重ト其ノ他、^三心^三在^レト医務員カ
當^リ急病^ノ場合^ハ松坂カ佐々保施設部本部ニ電話連絡シテ軍一
醫^官カ未診ニ来^シマシク其^ノ折^リ擔任^ノ軍医官^ハ余^リ熱心^ニテサカシト思ヒマス
彼^ノ名^ハカキマシク中村清揮^カ知^ルテキルト思ヒマス其^ノ後^ハ昭和十八年四月
頃交代^シテ未診ニ来^ル事ヲ^シテ金龍^ト云^フ軍医中尉^ハ非常^ニ優^シク
熱心^ニテ得^ル處^カ同情^ヲ彼等^ノ病氣^ハ全部^ハ自分^カ全治^サシテミセルト主
懇命^ヲカシテ下^サリ毎日^ハ如^ク未診^ニ来^ル事^ヲ私^モ非常^ニ嬉^シク彼^ノ診
察中^ハ權^ヲト午助^シマシク私^ハ命^ヲ書^クテ書^ク書類^ニ彼^ノ行^為ヲホメタク
エ長期間^向勤務^シテ下^{アル}事^ヲ願^ヒマシク彼^ハ九月頃^他ニ轉勤^シナラテ
行^キマシク、^一医務長^ハ松坂^重ニ藥品^ノアル限^リ彼^ハ全^ク力^ヲ盡^シテキマシク
然^レ且^レ長高^ト其^ノ任^者中村清揮^ヤ朝野^某ハタカ一回^ハ得^ル處^カ病人^ノ見^え
舞^モモ一回^ハ草^儀參^列モナシテ居^ラス得^ル處^カ作業^セル^ル其^ノ任^者
トシテ人^余リモ冷淡^ニテア^リト思ヒマス然^レ中村^ハ私^達カ得^ル處^カ爲^スニ
其^ノ改善^セカ^ラ預^ミテ行^クトテ解^シテ出来^ル事^ハニテ喜^シマシク結^核病^者得^ル
處^ニ對^スル^心トク親^切カ^ラク^クミ^ト思ヒマス、^一得^ル處^カ患者^ノ死亡率^ハ昭
和十八年三月頃^ハ一番^高率^ニテタ^リトシテ記憶^シテキマス、^一得^ル處^カ幾^ク存^レ
死^セテシタ^ク私^ハ記憶^テハ四十七八名^ト思^ヒテキマス、^一何^分三年^以前^ノ事^ヲ
テアル^レ又^モ其^ノ任^者テ^モナク^レ記憶^ハア^ラク^マセン、セ^クナ^ラセ^テタ^リタ^リタ^リ人^達ノ急性
肺^炎人^テア^ラズ^ヨウ^ウ心^ヒマス、^一昭^和十八年^ハ其^ノ任^者參^列シ^マシタ^ク私^ハ心^ハ暗^暗タル
モノ^デシタ、^一私^ハ一生^懸念^ニカ^ラク^ク對^シテ^コネ^イタ^リシ^コリ^ンア^ー、^一アイスクリーム
ノ三人^ノコカ^ルア^ー、^一非常^ニ件^ノ良^イ真^面目^ナ人^達カ^アリ
私^ハ對^スル^感謝^ノ病^者妻^ヲ見^舞フ^キ紙^ヲ私^ハ妻^ニ出^シテ下^サリ持^テ
来^リマシク、^一私^ハ數^回辭^退シ^マシタ^ク是^レ非^トシ^テ下^サリ^マシタ^ク送^リマシタ^ク。

午後、自己格入りし、私對る感謝妻へ見舞ひ文ヲテシテ、私リ
(二) 英文ハ解ラセシムテ、ジョージ・ワイルニテ載キマシテ、彼ハ其ノ
ヨリナ意味ヲ事ヲ私ニ解讀シ、其レシマシテ、厚慮ニ對シ、後ニ
手紙ヲ自今、配給、林橋ヲ送テ、其レノ私妻モ、又、石鏡ノ少
ナキ爲、厚慮ノ人達カ皮膚病カ多ク、事ヲ私ノ父ニ知ラシマシテ、
父多ク石鏡、製法方法ヲ教ヘテ、末マシテ、厚慮ノ病人ニ同情シ、
氣ヲ配ラシテ、下ツテ、慈愛深キ父モ、其他五名、家族モ、且、婦
孺子、娘、俾、空、能、夜、テ、悲、慘、ノ、死、ヲ、遂、ケ、マシ、テ、取、實、ノ、妻、イ、ト、シ、キ
子、供、モ、エ、レ、シ、ニ、テ、決、キ、決、キ、死、テ、行、キ、マシ、テ、私、一、人、生、キ、残、リ、
マシ、テ、身、体、ヲ、患、フ、ス、ト、後、テ、牛、マシ、テ、私、モ、長、ク、生、キ、ル、事、
出、来、ナ、イ、ト、思、ヒ、マ、ス、然、シ、私、決、テ、怨、ミ、ラ、抱、キ、テ、居、リ、マ、シ、テ、國、民
ヲ、欺、キ、テ、様、々、悲、慘、ノ、運、命、ニ、到、ラ、シ、メ、テ、指、導、者、達、ニ、對、シ、テ、ハ
憤、ト、ラ、ス、ニ、ハ、信、シ、マ、セ、ン、米、國、人、カ、如、何、明、朗、ナ、世、界、一、人、人、理
テ、ル、ク、勤、務、中、痛、感、シ、キ、マ、シ、テ、終、戦、後、原、子、爆、弾、
ニ、テ、身、体、ヲ、患、フ、テ、居、リ、マ、シ、テ、ガ、米、國、人、カ、懷、ク、テ、占、領、軍
將、兵、ニ、生、産、物、賣、ル、店、働、ク、事、ニ、シ、テ、カ、込、シ、實、際、ニ、ハ、身、、
体、カ、患、フ、テ、ス、ト、店、休、テ、働、ク、事、カ、出、来、ズ、腹、テ、居、リ、マ、シ、テ、
澤、山、ニ、ハ、厚、慮、ノ、病、人、、權、タ、ト、藥、ヲ、具、ヘ、テ、、又、自、分、配、給、品、モ、知、ド
分、ケ、具、ヘ、テ、キ、ス、カ、在、記、憶、シ、テ、キ、マ、シ、テ、今、シ、テ、、故、ク、
厚、慮、ノ、、世、事、、米、國、、ニ、、悔、、還、、サ、テ、、現、在、、悅、、ビ、、ヒ、、シ、、テ、、キ、、ル、
人、カ、、キ、、ニ、、私、、僅、、ク、、下、、ラ、、シ、、慈、、愛、、ヲ、、抱、、ヒ、、テ、、人、、カ、、感、、謝、、シ、、テ、、下、、サ、、ル、、人、、
居、ル、ニ、、キ、、テ、、シ、、テ、、キ、、マ、、ス、

指揮官折戸厚慮カ患心者ケ終日部屋内テ寝テキル事一リ
健康上有畏クシ云々時折天候ノ良キ暖イ日ニ曾我部春
太郎ニ命ジ体操ヲマシテ、日先浴ヲサシテ居リマシテ、ガ
病人ニ對シテ体操ヲ熱クシテ患者ノ日先浴カカヘテ有宜トシ、
ナイカト私リ思フテ居リマシテ、折戸ハ自今ノ考ヘカ正シト思フ

(二)

キラウカシク、私、自人の意見ヲ述べルハ、余ソレモ階級の低クシテ、
兵員ヲ俘虜シ病人ノ世話ヲシタリハ、曾我部春太郎、兒王廣、
福田徳郎、小林某、アソノ皆病人ニ對シテハ、親切ニシテキマ
シテ、持ニ福田徳郎、藥ヲ買ヒ具ヘタリ、菓物ヲ具ヘタリ、
シテキマシタリ

昭和十八年、三四月頃ト思ヒマス、私、一番希望シテ、通性食
料ヲ支給シ、慰勞シ、少佐ノ口添ニヨリ目的ヲ達スル事ニ出
来マシタリ、私、歎願の許可セテ、事ヤスカラ、誰ヨリモ嬉シク
メシケン粉ヲ俘虜ノ人達ト一箱ニテ、アソノ「トウク」カラ運搬
シテ、事ヲ相ヒヒユシマス、パンヲ製衣作スルニハ、福田徳郎
カ、應召スル、餅屋ヲ開業ニテ、各リ經驗者ヲアケマス、テ
彼の指導ヲシマシタリ、俘虜ノ人達ハ、パンヲ大變悦ビテ居ラシ
マシタリ、少佐製造ニハ、「ジョー」トイハ、カ、他ノ名ノ人ト一箱ニ當リ
マシタリ、パンハ、一日一回、テ、他ノ一回ノ食事ノ失張、施設部カ
支給シケンデス、食事ノ支給ニ就テ、施設部、食堂ノ半島
ニ員ガ、不公平ト時折、訴ヘテ来マシタリ、ソノ時ハ、食堂
ノ班長ニヨリ注意シテ、御飯ヲヨリ、私自身、鍋ヲ提ガテ、世員ヒ
ニ行キ、分ケ具ヘマシタリ、厨水昇一ト云フ水兵ハ、居ラマシタリ
カ、彼の食事ニ就テハ、持ニヨリ、氣ヲ配リ、直ケ、食堂ニヤカ
マシタリ、掛合ツテ、御飯ヲ貰フテ、マシテ居ラマシタリ
私ハ、少佐モ澤山喰ベマスヨリ、奴カカシケンデス、又、兵令ハ、御
飯カ、少シモ残ルバ、決シテ捨テタリ、ニテ、キマセン、必ズ、残リ、タ、モ、ハ
分ケ具ヘマシタリ、兵員達モ、失張リ、同分量ナシテス、カ、休日、テ、外
出シタリ、人ガ、自分ノ下宿、テ、食事ヲ、済マセテ、来ルモ、カ、アルノ、テ、
時折、残ツタ、デス。

(二)

私心多クシテモ多ク施設ノ事御飯ノ旨ニルコノ努力ノマシクハ浮
(三) 唐ノ飢ニシテ事ハ絶対リマモン施設部ヲ支給セテ居ルノ事ハ
今迄詳シク書イテ通リテス米ノ量ヲ副倉物程度ハ施設部
中村清輝ヤ其ノ関係者ヲ御調査下サイ。浮屠ノ勞務ハ
一ケ年必ス使用シ其間作業服一着ト地下足袋一足ト是レハ
其ノ僅クナモノガ何ヶ月使用ニ耐エ得ルデウカ？ 其ノ他ニヤフ
勝殿。省下等何一ツ具ヘズシテ満足ニテキタテ施設部創
責任ハ飽迄追求シテクテハナリマセン。作業ノ事ハ全部施設
部中村清輝朝野某木ガ要求シテア取ト成任ニ當ツテ
折戸渡邊ト詰合ヘテナシクテス。

私心許シテ唯ツチ段トシテ指揮官シテ命セセル書類ノ希
望ノ事項ハ衣服ノ支給ヤ其ノ他前述ノ通り必死ニ求メシヤスカ
官員現シマセンデシテ

私心多ク浮屠ノ主場ニ同情シテ其待遇改善ト自レ且取書キテ
盡シクノテ決シテ浮屠ノ虐待スルコトナ精神ノ所有者下ヤリマセン
私ニ慘^シ虐^シ虐^シ虐^シ心ガアルデシクテ決シテ浮屠ノ爲ニ主懸命

努力ハシテキナイデセウ。生治モ困ル様ナ食及テ私ガ規則ヲ
犯シテ迄自今俸給殆ク全テ棄テ實ニ求メタリ又自今下等
備隊ニ行キ棄テ給フ分譲ニテセドモ其ヘタリハシナカッタデセウ。

自今テ喰ヘバシイ菓子モ自今子供ニ送ンテアツキイ菓子モ一回アモ
自今テ喰ヘバアナイデス。私何ノ責任者ナラデスカラ其ノシ
クは事命ヲシタル事ヲナシスレバイハカスカラ心配ニシテ女子ナインデス

然シ私性質トシテ此ノ氣毒ナ浮屠ノ主場ヲ静視シテ知ラズ顔ヲ
シフハ居ラシナカッタデス。ソレヲ居住隊ノ事モ食事ノ事モ
衣服ノ事モ治療ノ對ニ事トシテ一生涯命改善セシ努力シタシム

元シテ日頃ノ素行ヤ性質ハ折戸渡邊其他兵員ハ心入證
明スルモト信ジマス。折戸ハ昭和十八年三月四日頃渡邊ト交代
(三)

シマラ渡邊、温和ナ人ナラガ職務ニ對シテハ勤勉アテラントハ
申カマセン、但シテ立場ヲ充分理解シテ改善ニ努力カサス
ベキデアラント思ヒマス。

昭和三十八年三月四日、渡邊取上級下士官 鮫島時男カト云フ人ト
深見安國ト云フ水兵ガ居ラマシク、深見ハ自身ヲハ米國
産レシト稱シテ居リ、英語ハ會ニ上手アシク然レ彼ノ性質
ハ狂暴ナ者ノ兵員ヤ工員達ニモ彼カラ歐レマシク然レ上
官鮫島ハ彼ヲ愛シ、秘カニ深見ヲ利用シテ保護カラ、毛布
ヤ、クオル等無理ニせマシク事ガアリマシク、私ハ是レヲ知り非
常ニ心配シマシク、シテアタトモ夜服カ施設部ニテ支給セシ
ナイ時又其ノ何時支給セルモノカ全ク不明ノ時、保護カ、
毛布等セマシク行爲ニ全ク惡イト思ヒマシク、上級者
高橋優ニ告ケマシク、高橋ハ深見ニ其ノ品物ヲ保護カニ
返却サシマシク、私ハ其ノ以前保護カカ少クアテ見越テヤルト
云フ、テ何氣ナクセ見マシク、シテ南洋ノ濱邊ニヨラテ浴
ケテキル何處モアルガ貴重品テハ全ク全ク利用價値ノ
ナイモノデシク、上級鮫島ハ是レヲ知り自分ガ毛布レヤカスル
テ無理ニせマシク事ヲ發見セタル事ヲ怨ミ、シテカラハ下級
者ノ私ヲ來テ壓迫シマシク、シテ深見ト云フ全ク悪イ兵員
ヲ及動的ニ保護シマシク、深見カ隨分ト保護カニ對シテ亂
暴シマシク事ヲ聞イタ事カ、シテ、曾我部春太郎、見玉廣、
福田徳郎、池添泰子等ヨリ聞イタカ、思ヒマス、上級鮫島
ガ深見ノ保護者テアラタルヲ、彼ノ悪イ行爲ノ際
テ余程日時カ経過シテケハ耳ニ這入マセテシク、此ノ事ハ
ハシ製造所ニ働イタ、ジョー、ズイ、ト、他ノ名ノ保護カノ人モ
知ツテ居リマス、渡邊ハ深見ノ行爲ヤ狂暴ヲ知り彼
ヲ七八月頃他ニ轉勤アセマシク、又其ノ惡イハ、鮫島カモ

他三轉勤マスベクニテ長クク様アスの何故。彼は可入リ長ク勤務
シマシタゾ 傳彦が野米ヲ盗ニテ事對シ是ヲ歐打シテ事

(五)

ハ槍對アリマセカ 野米ヲ買テヤツタ事アリマス 施設部
テ春ノ運動會ノアツタ頃テシラカラ三月四月ノ頃ト思ヒマス

私ハ其ノ時何カ指揮官(多分渡邊ヲマツコウノ日トヒマス)カラ

書類ヲ言フ事ヲ命ゼラシ 部屋デは事ヲシテキマスト 若イ水井

カハ屋ガ敷人倉庫カラ 野米ヲ盗ニテ喰ベクト告テア未

マシラ 部屋ニ居ノ上 叔下官(誰カアツカカモ憶シマセン)ガ花見

テ来シヨリ命ゼラシマシタシテ倉庫ニ行ヤマスト「シニクカ澤山

アリ其ノ中ニ石ヲ玉あもマツコウノ思ヒマス 倉庫ノ外側ニ

積ニ重ネテアリ 込入ル方モ悪イノ思ヒマシタシテ倉庫ニ居テ

休ニ盗ニテイヨリ倉庫ノ柵大ニ叩キ申シ「シニク」ハ身体ニ非常

ニ禁不養生カワキマスノア 少シ申シト申シマスト 外側ニ積ニテアツ

モノハ全部クシマシタ 指揮官ニ其ノ日誌「シニク」ハ兵員連

カ後刻分配ニテヤツコウヲ私ハ分配ノ時ニ書類ヲ書キ居リ

マシタシテ分配ラ合量ニ知リマセン 福田徳彦ガ分配ニテヤツコウ

ナ記憶アリマス 指揮官ハ盗ニ行ヒル思ヒカラ 銃シテ時ニ

相談ニテ云来シバ世ヲマルカラ盗ニテイヨリ又腐敗シタリ汚アキ

カハ槍對喰ヒテイヨリ注意アリシ「シニク」ハ代料スハ世中

マシテ彼ノ注意シテ話ガアツタ事ト思ヒマス

私ハ傳彦ヲ叩クハ前ニ述ベタ通りテ私決テ其人ヲ憎ニテ

叩クモノデハ槍對アリマセン 私人隊シタ日ヨリ衛生施設ノ全ク

不備ナ事ヲ一番心配シ 病人ガ爲ニ生命盡シタリテス少シ

カモ心得章ニ爲病ガニナラナイヨウ又病人ニ迷惑ノ掛ケナイ

ヨリ様ヲ返シ「シニク」ハ代料ニテ買ヒマシタ

衛生施設ノ悪ク丁度原因不明ト病患者ガ澤山出マシタ

傳彦病ヲ非常ニ心配シマシタモシ斯レ病人ガ發生シテ澤山ノ
死亡者出ラハ思イト思フカラデス 私叩ク行爲ハ悪イト(一五)
思ヒマス 然レ是レモ傳彦ガ全ク思ハラズカラス

11-11-11

公私被^レ醫^レ部^ヲ輕^クニシテ、三ツ叩イタケ決^シテ、ヒトク叩イキル丹
 リマセン、其^ノ人^ノケ負傷シタリ、ケレビ^テ引イタラスヒヨリニ、絶對叩
 イタル居^ルマセン、彼^レ若^ク、スト元気^ニ働キ、私^ノカ、昭和十九
 年六月四日、三長崎港外ニ勤務シテキルトキ、彼^ノ島^ニアツタ
 造船所^ニテ働イテ居リ(昭和十九年九月十日頃、見^ルキト記
 憶キ年ニス)昭和二十年、三月頃(確カ^ク記憶シ^テ)迄働キ
 其^ノ後他^ニ轉^シテ行キマシ、私^{ヨリ}彼^ノ願^ヲ見^テ受^ケテマシ、
 死^ニサテ、厚^ク人^ノ達^ニ死^ニ係^リ因^ニテ、審^判アル^ノアレク^ル、軍^官
 官^ニ金^龍軍^官中^尉松^坂區^務長^ニ、其^ノ他^ノ區^務負^任者^ノ看
 護シ^テ、曾^成部^長大^尉、福^田德^郎、使^玉廣^シ、林^某人^ノ
 折^戶、渡^邊、西^指、揮^官等^ノ、喚^キ、即^チ調^査、是^レ非^ハ其^ノ
 ニテ下^リ、又、吹^打、死^ニマシ^タ早^ク、事^實、其^ノ不^正
 々^ニ、絶對免^止、調^ベ下^リ。

厚^ク、老^人、達^ニ、シ^テ、樂^ナ、任^務、其^ノ努^力、シ^タ事^ノ
 也、彼^レ、是^レ、ノ^ヲ、領^シ、テ、年^々、割^リ、班^ヲ、分^ケ、テ、老^人、ア^イ、ク^ラ、マ^シ、事^ノ、モ
 「ク、マ、ス、ト、モ、最^モ、年^々、ノ、人^ノ、私^ノ、親^ヲ、對^シ、自^分、財^産、生^ラ、カ^ケ
 其^ノ、ト、中^ニ、シ^タ、事^ノ、モ、又、死^ニ、者^ノ、對^シ、ニ、存^心、儀^ノ、奉^リ、列^者、ノ、指^揮、
 官^ニ、不^{領^シ}、テ、ハ、シ^テ、實^ニ、多^ク、自^分、煙^草、ヲ、令^キ、其^ノ、事^ノ、等^ノ、
 亦^日、述^ベ、テ、道^ヲ、リ^タ、ス、出^来、ニ、大^キ、愉^快、ニ、厚^ク、傍^ト、モ、ウ、重^キ、シ^テ、
 氣^分、カラ、解^放、サ^レ、ヨリ、常^ニ、希^ニ、逢^フ、抱^キ、飽^テ、戰^ハ、年^々、終^ニ、
 結^ビ、生^キ、抜^キ、ヨリ、勇^カ、氣^ヲ、シ^テ、タ^ス、演^習、會^ヲ、自^分、ノ、
 費用^ヲ、ア^リ、テ、シ^テ、モ、野^球、歌^ヲ、行^フ、テ、シ^テ、モ、前^ニ、書^キ、テ、道^ヲ、リ^タ、ス、
 私^ノ、最^モ、下^ニ、級^ノ、下^ニ、官^ト、シ^テ、ハ、自^分、ノ、出^來、得^ル、モノ^ノ、總^テ、ア^ラ、盡^シ、
 シ^タ、ス、
 然^レ、此^レ、是^レ、等^ノ、不^慮、ニ、昭和十八年十月十日陸軍第十八分所^ノ、設置
 テ、テ、レ、ノ、人^ヲ、改^善、セ^テ、不^慮、ニ、解^放、サ^レ、タ^ス、衣服^ニ、直^チ、
 支給^シ、食^料、等^モ、シ^テ、シ^テ、彼^等、如^何、ニ、嫌^ハ、氣^ヲ、シ^テ、外^ニ、
 金^金、直^チ、支給^シ、私^達、海^軍、下^ニ、官^ニ、其^ノ、外^ニ、金^金、等^モ、シ^テ、シ^テ、

(五) 倉部、相違を以て居り、人達も思ひ、海軍の倉、又から申上
り、彼等の施設部は全部總テノ支給ヲ受テテ裏面ノ内情
ヲ余知ラズ、施設部ト海軍監督部隊ノ混同ニ其ノ不備ヲ全部
私達海軍監督部隊然モ誠心誠意一番厚慮ノ同情者ナリ
シモ、努力シテ不構不總ノ待遇ヲ不備トテ唯一ツノ記憶
シテテラシムル、私ノ名ヲ以テ表現マシテ、私死スモ死ニ
ナリ、深い深い悲しみテ一杯テス、一日厚慮ヲ叩イテ事、事
安良テス、然し他ノ余ヲ私ニ身ニ不エリ、先頭アリマセン、人ノオモシ
キ罪人、私名ヲ以テスルニ、余ノミ無慈悲テス、余ヲ無慈悲
根シス

何故海軍施設部正破、午種ヲテテ使用シテカ、是ケ何ト云
フテモ、何子も居ラズ不備テス、何イノ最大原因シス
「自こ早」施設部中不備、朝鮮、某其他全部、關係
者及海軍監督部隊折片、渡邊外兵員全部ヲカ、誤入
飽食ニ御調査下サイ。

FV-13

(七)

受持圖



相當海軍兵の成隊

指揮官
折戸得志
(渡邊福一)



正面圖(昼間)



背面圖(夜間)



以上如く海軍兵隊隊員は、相當收容所ヲハナク、唯、中村清輝ニシテ、
 服務中ノ得志ト夜間居住區附近ノ兵隊ニシテ、
 收容所ニ入ルニシテ、作業等爲メ、海軍施設部(中村清輝)

AT-8
20302

(二) 等々行ツタ分アリマス。

佐世保海軍施設部相當現場(責任者中村清輝)ニテ俘虜ヲ
收容(衣服支給、食事支給、居住區、醫務關係支持)コレヲ
經營スル責任アルニガカワラス施設部ハ何等是ノ待遇改
善ニ努メカナサズ結果ニ於テハ、前ニ述ベマシタヨリニ悉ク俘虜
ニトツテハ待遇悪ク、被服食事、居住衛生、設備等詳シク
述ヘク通リニテ然モ、正規テ手續ヲサズ勞力役ニ服セシタル
關係上俘虜カトシテ、義務權利ヲ受ケズ施設部ニ收容
セシタル約一ケ年間ヲ通シ家族ヘ、文通モ陸軍ニ登録
シアラサルヲ不能デアリ又一回、救恤品ノ支給スラ受ケテ
井マセン全ク氣ノ毒ナ狀況デシク。

施設部(中村朝野)ハ朝鮮工員及日本工員ヲ、工事ノ繁
急ナル爲、長時間就勞カセシメテ居リ、俘虜ニ對シテモ(俘虜
ハ勞務時間ハ八時間尙テシテ)ヲ勞務時間延長ヲ、工事
上ノ都合ト稱シ、再三、指揮官(折戸渡邊)ニ要求シテ未
マシク、指揮官(折戸渡邊)ハ衛生施設ノ不完全ヤ、俘虜
ノ体力ノ狀況ヲ考ヘ、又部下兵員(私達ノコト)ガ少数デ
テ、俘虜ノ作業時間ノ延長及スレバ當然兵員モ警戒勤務
時間ノ延長及サレ無理ヲ末スノデ拒絶シテキマシタガ、施設部
(中村朝野)ハ、コレニ満足セズ佐世保海軍施設部本部

(中村朝野)ニ報告、本部ノ許可ヲ得、其ク七日海
軍ニ或隊指揮官(折戸渡邊)ニ通知、指揮官モ、ヤ
ウヲ得ズ作業時間ノ延長及セシ事アリ、又施設部(中村朝野)
ノ要求ニ依リ、作業上、ヤウヲ得ズ指揮官(折戸渡邊)ガ
種時間ノ延長ヲ認メタ事モアリマシタ

(二)

海軍施設部ト海軍軍醫隊カ同シ海軍ノ一部隊デアリ

(三) 施設部中村清輝ガ海軍中尉(相當官)デアリ成隊指揮官(折伏渡邊)カ海軍曹長及下階級ガサポート下位デアツノ

事モ中村ノ要求ヲ全部拒絶スル事カ困難デアリ又成隊ノ成隊ガ施設部カラ食事ヲ支給(食費及トシタ)ラ又成隊ノ事ヤ兵舎ノ事及施設部ヨリ居住區ヲ提供シテ世員ツタ等ノ事モ指揮官(折伏渡邊)ノ心遣ニ影射身共ヘタ事ト思ヒマス

僕等ノ作業時間延長ニ對シテハ指揮官モ不滿意ヲ示ラシタ事ト思ヒマスガ、我々兵員ノ勿論全部反對デシテ、僕等ノ作業時間延長アシハ、我々下級者ハ常ニ勤務ノ直接交渉カスバナリマセン、然レ休息時間短縮サシ我々兵員ガ作業時間延長ヲ慢アズルハ絶対アリマセン、常識デモ

判断セラシル事ト思ヒマス、僕等ノ健康ニ對シテハ心配シ努力シテマタ私ハ勿論絶対反對シマシタガ、指揮官ノ許可サレタ時ハ、我々ノヨウナ下級者カ、如何スル事モ出来マセン、

トテ私ハ指揮官ノ止ラ得ズ許可サレタ場合ハ、このクハ、三分向ノ延長デアツタモ、コレニ對シテ食物ノ支給ヲ施設部ニ要求シマシタ(勿論指揮官ノ許可ヲ得テ指揮官ノ名ニテ請求) 施設部(中村朝野)ハコレヲ非常ニ嫌ヒ、日本ニ員ヤ朝鮮ニ員テモ何等食物ノ支給シナイト断リマシタガ、エ員達ハ、このクハ多ク

ノ員全クモ夏ヘレノデアリ、僕等カハ、このクハ多クヲ支給マシト強固ニ施設部ニ交渉シテ時間延長及ヒシ時ハ、三食(朝食、昼食、晩食)外ニ必ず支給シテ世員ニマシタ

此ノ食物ノ支給セラシル事ニ對シテモ私カ如何ニ如何カシタカ

折戸渡邊等ヲ調査スルハ判明シマス施設部側ハ是ヲ慢マス
 食物要求ニ對シ隱ク警戒隊ヲ非難シテ井ルヨリテシク。

折戸渡邊モ作業時間延長ニ非意ニ不高ク思フテ居リ
 又上級下士官以下兵員全員又對シ健康ヲ健康上飽達
 中上セバハ又事ヲ遂ニ指揮官(折戸渡邊)カラ警戒
 備隊參謀長(越)少佐、狀況ヲ頼ム。長少佐ヨリ
 施設部本部ニ通告作業時間延長ヲ絶對中止スル
 コル命ゼラシ中止サシマシタ。元達ハ指揮官ノ命ゼラシ
 タル時警戒勤務ニ就キマシタガ延長サレタ事カ何回
 程アツタカ記憶シテ井マセン。施設部の時折、延長(時間)
 セシタ事ハ事實ヲス。

結局施設部側(中村朝野)ハ責任者ヲアル健康上
 上思フテ總テ改善シテヤラナクシバナライノニ、其レニ對シテハ全ク
 何等ノ努力モナサスカハツテ健康ヲ使用スル事ノ專念シ
 テ、自分達ノ責任ハ全ク果クシテ井マセン。健康ヲ收容スル一番
 責任者アル中村朝野ノ健康ヲ悪化者ヲ一回モ見舞
 ツ事ナク事カ彼等ノ如何ニ冷淡デアツタカ知ル事カ出来
 マス。朝野ノ如クハ降雨厚ク浮腫ヲ作業地ヨリ引揚サレタ
 事ヤ、降雨厚ク朝野作業ニ出サナカク事ニ對シ、我々
 兵令迄抗議ヲ申込シタ事アラマス。警戒隊
 ハ降雨ヤ降雨ニ對シテハ常ニ作業ヲ中止セシメ休業
 セシメマシタ。健康ヲケルインポートヲ持クタイカラテス。
 總テ海軍警戒隊ハ施設部ト反對ノ立場アリ、健康ヲ
 保護シタテス。

(五) 吾等或は保の作業地ヲ巡廻警戒し朝鮮エヨ見ヤ日本ニ員遣ラ
度守リテ加ヘラシム事ノタイヨハ保護シテアキマス。無員ノ中
ニモニニ三 台向是水ナ悪イ人カ居ンク事リニ別ニ詳シク言イタ
通リテ 私達ノ知ラナイ歐打事件ノアワノカノイトコロ私
ニハ判リマセン。私ハタダ總テ指揮官ヤ上級下級ノ命令通
リニ主観心命傷キ待遇改善ニ生懸命努力シタノマス
但シ傍ラ一度叩キ事ニ幾度モ座ベテ通リテ他ノ事ハ自
分ニ全ク身ニホエアリマセン。関係者ヲ全部召喚シテ
飽近御調査下ワイ。指揮官達ハ何モ知ラナイト云ハレ
ナイゾレテス。私ハ最下級者(下士官)テアリ作業ニ對スル
命令權(命令權中村ヤ朝野)ナキ事ヤ 食事支給(施設部
中村ハ折尺ニ度也等)

支給ス)ノ事モ全ク出来ナイ。本上級ニ下級者テアル事カオ判
リニナラシム事ト信ビマスニ要スルニ度係者ヲ御調査下
サレバ詳シク事情カ判明シマス。

終

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS
MILITARY INTELLIGENCE SECTION, GENERAL STAFF
ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION

NOTE: Translation Requested by Legal Section.

Received ATIS: 17 Jul 46.

Description of Contents: Full translation of a Document describing Treatment of Allied Prisoners of War in the SASSEO Naval Civil Engineering Section work Area.

1. Chart of Positions of Civilians in charge of Prisoners of War in the
SASEBO Naval Civil Engineering Section.

Civilian in Charge
Naval Guard Unit
GEMO, Denkichi
(折) (徳吉)
(WAYANANE, Fukuichi)
(渡辺福一)

Purchase and sale of tobacco from Nav. Civ. Eng. Sect. Centeen
30 yen a day per person

senior petty officer

senior petty officer

senior petty officer

senior petty officer

junior petty officer
(myself)



naval personnel

Seaman Working area of P&W

Guard plan
(Day)

Seaman

Seaman

petty officer

Billeting Area of P&W

Seaman

Guard plan
(Night)

Civilian in charge of work area of
SASEBO Naval Civil Engineering Section:
MAYAHARA, Kiyotaru (中村清輝)



PW Administrative Staff

ASANO, (given name unknown)

PW Admittances

Clothing supply

Food supply

Billeting

Dispensary

P&W

These are in direct supervision of work.

MASUMOTO (given name unknown)

One other person

Personnel

in charge of PW's.

Section leader.

HIRAI, given name unknown

ISSIBASHI, given name unknown

HAITO, " " "

YAMAGUCHI, " " "

10-15 other " " "

The Naval Guard Unit shown above is not the PW internment camp, but merely their work area. The only mission of the guards there, was to guard the P&W at work and to guard their billeting area at night. All matters pertaining to internment and assignment of work to the P&W, etc, were handled by the Naval Civil Engineering Section under NAKAMURA and ASANO.

2. Although the responsibility of admitting and administering (includes functions of supply, mess, quarters, medical care) P&W in this work area fell to the SASERO Naval Civil Engineering Section (In charge of NAKAMURA Kiyoteru), this section failed to try to improve the treatment of its P&W.

As a result, as I have already stated, the general treatment of P&W was poor, and clothing, food, quarters, medical care, facilities, etc, were as I have stated in detail. Furthermore they were put to work without having gone through proper channels. Since they were at this installation for about a year without their names even being registered with the Ministry of War, they were deprived of their rights as P&W, not even being able to correspond with their families. Neither did they receive any relief goods whatsoever. It was truly a pitiful situation. The Civil Engineering Section (NAKAMURA and ASANO) had Korean and Japanese laborers working long hours because of the urgent need of the installations. They repeatedly asked the commanding officers (ORITO and WATANABE) to extend the working hours (about eight hours a day) of the P&W as well. The commanding officers (ORITO and WATANABE) refused because of inadequate medical facilities, physical condition of P&W and the lack of sailors to assume guard duties. Naturally any increase in guard hours would simply have meant hardship for us sailors. But the Civil Engineering Section (NAKAMURA and ASANO) was not satisfied. They submitted a report to the Headquarters of the SASERO Naval Civil Engineering Section (NAKAMURA and ASANO's superiors) and secured the necessary permission. Thereupon they notified the Naval Guard Unit Commanders, ORITO and WATANABE, of this, so there were times when the commanders had no choice but to lengthen the P&W's working hours.

The Navy Civil Engineering Section and the Naval Guard Unit are both part of the Navy. NAKAMURA, Kiyoteru of the Engineering Section, had the simulated rank of a lieutenant (j.g.) and Guard Unit Commanders ORITO and WATANABE had the simulated rank of warrant officer. This great difference in rank made it difficult to refuse NAKAMURA's requests. I believe that ORITO and WATANABE were also influenced by the fact that the guard unit received its rations (which they paid for) from the Engineering Section, and the fact that their quarters were given to them by the Engineering Section. I don't think the commanders were too well pleased with the idea of increasing the P&W's working hours. We sailors certainly opposed it. If the working hours of P&W were extended, it was we seamen who would have to assume longer guard duties. Naturally, since the rest periods would be shortened, we sailors were positively unhappy about the extension of working hours. That was a matter of common sense. I was always very worried about the P&W's health, and naturally opposed the plan, but orders were orders and a lowly seaman like myself could not do much about it. Whenever the commander unavoidably had to permit the extension of work hours even for 30 minutes, I requested extra food for them from the Engineering Section. (Of course I did this with the permission of and in the name of Commanders NAKAMURA and ASANO). The Engineering Section did not like this at all, and refused, saying that the Korean and Japanese workers themselves did not receive extra food for extra work.

But since these workers received extra pay, while the POW did not, I insisted on their getting more than three meals a day whenever they worked overtime. I was successful in my attempts. You can learn from ORITO and WATANABE just how much effort it cost me to get this extra food for the prisoners.

The Engineering Section did not like this at all, and it seems that they criticized the Guard Unit behind our backs.

ORITO and WATANABE were also greatly dissatisfied with the extension of working hours. And all the personnel from Chief petty officer down to seaman were completely against it. ORITO and WATANABE appealed to Lt. Com. CHO, Hikaru (長光) of the Guard Unit Staff to put a stop to overtime for the sake of the prisoners' health. At long last, the order came from Lt. Com. CHO's office to the Engineering Headquarters absolutely forbidding working POW's overtime.

We assumed guard duty whenever so ordered by the commander, but I do not recall how many times the POW had to work overtime. It is true that the Engineering Section sometimes made them work overtime. After all HANABUSA and ASANO were in charge of the Engineering Section and it was their responsibility to try to safeguard the health of the POW. On the contrary, they were only concerned with working the prisoners and utterly failed to live up to their responsibility.

One can learn how indifferent HANABUSA and ASANO were toward the prisoners by the fact that they did not once visit a sick prisoner although they held the ultimate responsibility for the prisoners' well being. As for ASANO, there were times when he came all the way over to our barracks with a loud complaint simply because we had not sent the prisoners out to work in the morning or had withdrawn them early from work because of rain. Whenever it rained or snowed the guards had the POW's quit work because they lacked raincoats. The guards always opposed the engineers, and protected the prisoners. The guards made the rounds of the work area to prevent the Korean and Japanese workers from harming the POW's. As previously stated in detail, there were two or three undisciplined men among the seamen.

There might have been some incidents of beatings that I never heard about. I simply did my best to carry out the orders of my superior officers and NCO's and to improve the treatment of the POW. I did beat a prisoner once, as I have stated repeatedly, but I am absolutely innocent where other incidents are concerned.

Please call together all those involved and investigate the matter thoroughly. I think that the commanders can not deny knowledge of the facts. I believe that you will see that I was a petty officer of the lowest rank, without authority to issue orders (The authority to issue orders lay in HANABUSA, ASANO, ORITO and WATANABE) or authority to issue food (This was under authority of HANABUSA of the Engineering Section). In short, if you will please question the individuals involved, you will learn all the facts of the case in detail.

End.

(1) 俣野が佐世保海軍施設部相當現場に收容ミラレル時。

昭和十七年十月十二日デス。

(2) 收容合ノ責任者

佐世保海軍施設部相當現場、海軍技師 中村清輝。

俣野作業責任者(中村技師不在、打、代理者)

朝野 某。

20300

(3) 俣野が對スル作業居住區、食事、被服、病人に對スル治療ノ責任ハ
施設部 中村技師ノ責任デアリマス。

(4) 海軍兵士或隊ノ責任者ハ

指揮官(隊長) 海軍兵曹長

指揮官不在、打代理者 海軍上等兵曹

其餘 級下士官

折戸傳太郎
中起 泰兵衛
折本 某、外兵員
(其餘ノ事ハ、折戸居リマシキナラ
テ判リマス)

(5) 佐世保海軍兵士團ノ上官ヨリ命令ヲ受ケ勤務ニ就イタ日

昭和十七年十一月十七日。

(6) 昭和十七年十一月十七日私の勤務ニ就イタ時ノ指揮官(隊長)

海軍兵曹長

折戸 傳 士郎

指揮官不在ノ時ノ代理者

海軍上等兵曹

中 越 泰 兵衛

海軍上等兵曹

富 永 朝 雄

其他上級下士官

海軍上等兵曹

松 本 謀

海軍上等兵曹

岩 下 力

海軍二等兵曹

高 橋 優

(高橋の死、十月以後ニ入隊)

(7) 私ト一緒ニ 昭和十七年十一月十七日ニ入隊(勤務ニ就ク事)シタル人。

海軍一等兵曹

岩 下 力

海軍二等兵曹

瀧 川 幸 生

海軍水兵長

福 田 徳 郎

(三 名)

(8) 不在勤務ニ就イタ時ノ階級

(9) 海軍幕下或隊指揮官

(10) 指揮官ヲ補佐不在ノ折ノ代理者

海軍二等兵曹

(昭和十七年十一月一日ニ二等水兵カラ二等兵曹ニナリマシカラウ丁度十七日付)

| | | |
|------|-------|------|
| 才一ノ人 | 海軍兵曹長 | 折戸得志 |
| 才二ノ人 | 海軍兵曹長 | 渡邊福一 |
| 才三ノ人 | 海軍兵曹長 | 西地徳市 |
| 才四ノ人 | 海軍兵曹長 | 伊東博 |

| | |
|--------|-------|
| 海軍上等兵曹 | 中越嘉兵衛 |
| 海軍上等兵曹 | 江頭朝雄 |
| 海軍上等兵曹 | 坂上某某 |
| 海軍上等兵曹 | 田園某某 |
| 海軍上等兵曹 | 水島守 |
| 海軍上等兵曹 | 鮫島男 |
| 海軍上等兵曹 | 小川時太郎 |

(11) 其他普通ノ下士官(上級)

海軍一等兵曹

松本 某

海軍二等兵曹

高橋 優

(12) 右通テ私ハ指揮官(隊長)デハ絶對アリマシ

僅カニ週崗位テ上級者ノ一等兵曹上等兵曹、兵曹長等ノ

指揮出来リカ不クハ、常識デモ判断シタル事ト思ヒマス。又指揮

官不在折ノ代理者デモアリマセン。余ノ一番下位ノ下士官デ私シカ

昭和十九年二月九日他ニ勤務スル様ニナル迄、私ノ下位ノ下士官トイフ

ハ昭和十八年十一月一日ニ長野某ハ水兵長ヨリ二等兵曹トナリマシラ

シテ其ノ人只一人デス。私ハ命令者デモ、主責任者デモアリマセン、

タリ上級者ノ命令、指揮官ノ命令通リ働イタノデス

傳ヒテ方ニ作業サシタハ、佐々保海軍施設部デ勞働ニ對スル

主責任ハ中村清輝、朝野 某、折戸傳吉、渡邊福一、達

(13) デス、私達、照 指揮官(折戸渡邊) 命令通、働イテ、ミテス、
衣服事、食事、居住長、病人ニ對スル治療ハ全部施設部

中村清輝カヤテ、マシテ、病人ニ 施設部、治療室ニ
行ヒ、醫務長ハ、松坂重シカサカカ行ヒ、其他ニ、三四人、治療員カ
居リマシテ、其人達ノ名ハ、中村清輝、調査スルハ、判明シマス

ソト、佐々保海軍施設部、軍醫官カ行ヒマシテ、軍医官ノ
名モ、中村清輝カ、カツテ、アルセテス、海軍、其ノ隊ヲ、病人ノ世話
ヲシクモ、ハ、曾我部春太郎、福田徳郎、見玉廣、小林某
デスカラ、御調ラ、ベトサイ、軍醫官ノ人ハ、金江ト云フ、海軍中尉デシ

(14) 指揮官(隊長) 折戸渡邊ハ、温和人、熱意の不足を以て 自今、職責ヲ

ニ對シテハ、決シテ、勤勉、テハ、ナカラ、ト、思ヒマス、上級下士、カ、モ

優厚カ、ニ對シテハ、冷淡、デ、シ、私ハ、優厚カ、カ、ミル、キ、モ、カ、ト、思フ、

一生、其ノ命、優厚カ、カ、爲、盡カ、シ、テ、ス、

昭和十七年十月十七日私と緒入隊ニク上級下士官 山石下 加ハ酒ヲ
呑ト自分ケ判ラナクナリ 非常ニ 亂暴ルテ、毎日、每晚酒ヲ呑シテハ
兵員ヤ、何處方ヲ ^介指導スル日本工員ヲ、ヨク撲ツテキマシタ

昭和十八年ノ正月頃ニ彼ハ每晚酒ヲ呑テ亂暴ルテキマヌ
私ト彼山石下力ハ一緒ニ入隊シ体格モ、ヨク似テ居リマス、私ハ
病氣テ毎度ヨク、寝マシタ、昭和十七年ノ十二月モ、昭和十八年ノ一月

モ、又十八年ノ八月モ病氣テ寝マシタ、彼山石下力ノ性質ヤ行
馬ノ兵員達 (福田徳郎、首尾計春太郎、凍水昇) ヤ施設部工員

(佐藤某、石橋某) (山本某、平中某) カヨク知ツテキマス 工員ノ名ハ中村清輝ノ知ツテ
キマス、私ハ酒モ、煙草トモ、ノミマセン。彼山石下力ハ勤務

期間ハ短ク、何處方ハ彼ノ名ヲ記憶シテキナイト思ヒマス

深見安國フカミヤストイフ水兵が昭和十八年、三四月頃入隊シマシタ彼ハ
自身テハ米國テ生シタト申シテキマシタ。英語が非常ニ上ウツクシク
デシタ。彼ハ非常ニ気がモルク亂暴テシタ。若イ兵員ハ、ヨク
彼ヲ殴ラシマシタ。彼ハ俘虜カラ無理ニモ布シヤヲラルセ見ヒ
渡邊福一ワタナベフクイチ(指揮官)ニ叱責サレタ事カアリ。又俘虜ニ亂暴
シタ事ヲ、二三回聞イタ様水ノ記憶カアリマス。カトシテ事テアツ
タカヨク記憶シマセン。福田徳郎フクノベトク、我部春太郎ワガベハル、池添春子イケゾエハル
等ヲ聞イタヨウニ思ヒマス。渡邊指揮官モ彼カ亂暴テ、悪イ、
昭和十八年、七八月頃彼ヲ他ニ轉勤サセマシタ。彼ノ素行ハ
指揮官ノ外、高橋俊、兒玉廣、太田善五郎、恩塚又次等が
ヨク知ッテマス。私ハ何回モ申セタヨウニ、俘虜ヲ殴ツタ事ハ
殘飯ヲ喰ベテキル人ノ辱部ヲミツクイタソレ一回カケテス

其の他絶対叩いゝ人居りマセン。

自身ハ全ク身ハスオエテキ事バツテ全ク無害ノ事ナシ
急イ行成ラシク人ノ名ヲ記憶ス。一主無命モ語ニテ一番ロク
名ヲ知ラシク私ノ名ナド逆マテテ耳モト信ニス。

ドウク勤務者ヲ全部召喚シテ檢査、御調査下サイ、ソノス
レ私ノ性格マ其の施設部ノ事ト全部判明スル事ナシ。

施設部ノ中村清輝、朝野某、折戸傳吉、及邊福一、其
他施設部医寮関係者等ト全部呼テ（口王丁）、御調査下サイ。